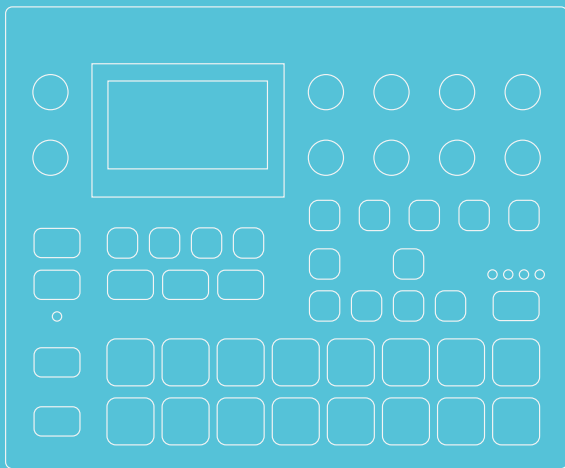


# Digitakt

ビートを刻むパワフルな機器



クイックガイド





## Digitakt

### お買い上げいただきありがとうございます

Digitaktをお買い上げいただきありがとうございます。Digitaktは、Elektronがお届けする、新しいコンパクトなドラムマシン兼サンプラーです。ビートに合わせてリスナーを踊らせるために必要な、すべてのツールが含まれています。デジタルかつ柔軟性の高いサウンドエンジン、サンプリング機能、ライブ向けシーケンサー、外部 MIDI 機器制御機能を搭載し、Overbridge をサポートしています。

ドラムマシンは、Elektron の得意分野です。そして、Digitakt がそれを証明しています。

このクイックガイドでは、本製品の基本的な機能を説明します。

詳細については、Digitakt ユーザーマニュアルをご覧ください。以下からダウンロードできます。

[www.elektron.co.jp](http://www.elektron.co.jp) からダウンロードできます。

素晴らしいデジタル体験をお楽しみください!

- Elektron チーム

## FCC 適合宣言書

本機器は FCC 規則の 15 項に準拠しています。機器の使用は、以下の 2 つの条件の対象となります。

(1) 本機器は、有害な障害を発生させない。(2) 本機器は、希望しない動作を発生させる場合のある障害を含む、受信した全ての障害を受け入れなければならない。

注記：本機器はテストにより、クラス B デジタル装置の基準を満たし、FCC 規則の 15 項に準拠することが確認されています。これらの基準は、住宅での設置における有害な障害に対して、適切な保護を規定することを目的としています。本機器は、無線周波数のエネルギーを生成、使用、放射します。指示に従って設置、使用されていない場合、無線通信に有害な障害が発生する場合があります。しかし、特定の設置方法をとれば障害が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な障害を発生させているかどうかは、機器をオフ / オンにして確認できます。もし発生させている場合は、以下の方法のいずれかによって、障害の修正を試すことが推奨されています。

- 受信アンテナの方向あるいは位置を変更します。
- 機器とレシーバーの間の距離を離します。
- 機器を、レシーバーが接続されているものとは異なる電源コンセントに接続します。
- 代理店または経験豊富なラジオ / テレビ技術者に相談します。

## Canada

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.  
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003.

### **European Union regulation compliance statement**

This product has been tested to comply with the Low Voltage Directive 2006/95/EC and the Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC. The product meets the requirements of RoHS 2 Directive 2011/65/EU.



Your product must be disposed of properly according to local laws and regulations.

### **法的免責事項**

この文書の情報は予告なしに変更されることがあり、Elektron によるコミットメントと解釈されるべきものではありません。Elektron は、このドキュメントに示されるすべての誤りの責任を負いません。Elektron は、この文書で説明している製品およびプログラムの改良および / または変更を、いつでも通知なしに行うことができます。Elektron は、契約、不注意、またはその他の行為に関わらず、本情報の使用または性能から生じるまたは関連するいかなる特別な、間接的な、または結果として生じる損害または、使用、データ、または利益の損失から発生するいかなる損害に対しても、責任を負いません。

## 安全に関する重要な指示

1. 本製品を水のかかる場所で使用しないでください。
2. 画面やケースを、薬品などでクリーニングしないでください。埃や汚れや指紋を除去する際は、柔らかく乾いた滑らかなクロスを使用します。汚れが落ちない場合は、水で布を少しだけ湿らせてから、ふき取ってください。クリーニングを行う前には、全てのケーブルを外してください。製品が完全に乾いてから、ケーブルを再度接続してください。
3. 本体の設置を行う際は、メーカーのマニュアルに従ってください。使用を始める前に、本体を安定した場所に設置する必要があります。
4. 本体の設置場所の近くにあるコンセントに電源アダプターを接続してください。
5. 本体を輸送する場合は、メーカー推奨の付属品を使用するか、本体に同梱されていた箱と緩衝材を使用してください。
6. 本体を、ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生させる機器（アンプを含む）の近くに設置しないでください。
7. 機器の電源が入っている間は、PL-2S 保護カバー（Elektron アクセサリー）を機器に取り付けしないでください。
8. 本製品は、アンプ、ヘッドフォン、スピーカーと組み合わせて使用することで、永久的聴力損失の原因となりうる大音量を発生させることができます。大音量や不快なレベルの音量で長時間使用しないでください。
9. 電源コードの上を歩いたり、特にプラグ部分、コンセント、および機器との接続部を挟んだりしないでください。
10. メーカー指定の付属品のみを使用してください。
11. 雷が発生しているとき、長期間使用しないときには、電源アダプターをコンセントから抜いてください。
12. 修理を行うときは、必ず資格のある修理担当者にご相談ください。本体に液体をこぼしたり、物を落としたりした場合や、本体が雨や霧にさらされたり、正常の動作をしなかったり、落下したりした場合など、機器に何らかの損傷がある際は修理が必要です。

## 警告

### 火災、感電、製品破損のリスクを軽減するため、以下の指示に従ってください。

- 本体を雨、霧、水しぶきにさらさないでください。また、花瓶などの液体の入った物を本体の上に置かないでください。
- 本体を直射日光のあたる場所に置いたり、室温が 40°C を超える環境で使用したりしないでください。誤動作につながります。
- 分解しないでください。本体内部にユーザーが自身で修理、調整できる部品はありません。必要な場合は、専門のサービス技術者に修理を依頼してください。
- 電氣的仕様で指定されている制限を超えないでください。

### Elektronの電源アダプターPSU-3bの安全に関する指示

- アダプターは、屋内用として開発されており、屋外では使用しないでください。
- アダプターの通気性を確保するため、狭い場所には設置しないでください。過熱による感電や火災のリスクを防止するため、カーテンやその他の物体でアダプターの通気を妨げないでください。
- 直射日光にさらしたり、室温が 40°C を超える環境で使用したりしないでください。
- 本体の設置場所の近くにあるコンセントにアダプターを接続してください。
- 電源コードが接続されているときには、アダプターはスタンバイモードになります。電源コードがコンセントに接続されている限り、初期回路は常にアクティブです。電源を完全に遮断する場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。
- EU では、CE 認可の電源コードのみを使用してください。

# TABLE OF CONTENTS

<b>1. はじめに</b> .....	<b>10</b>
1.1 本マニュアルの表記 .....	10
<b>2. パネルレイアウトと接続</b> .....	<b>11</b>
2.1 フロントパネルのコントロール .....	11
2.2 背面パネルの接続 .....	14
2.3 Digitaktの設定と開始 .....	15
<b>3. サウンドアーキテクチャ</b> .....	<b>16</b>
3.1 ドラムボイス .....	16
3.2 エフェクト .....	16
<b>4. ユーザーインターフェイス</b> .....	<b>17</b>
4.1 画面の移動 .....	17
4.2 パラメータ編集 .....	18
4.3 パラメータ値のジャンプ .....	18
4.4 [FUNC]キーとの組み合わせ .....	18
4.5 クイックスクロール .....	18
4.6 コピー、クリア、貼り付け .....	19
4.7 名前を付ける画面 .....	19
4.8 OVERBRIDGE .....	19
<b>5. パターンの操作</b> .....	<b>21</b>
5.1 工場出荷時プリセットの再生 .....	21
5.2 CHROMATICモードの使用 .....	21
5.3 ミュートモードの使用 .....	21
5.4 テンポ .....	22
<b>6.トラックについて</b> .....	<b>23</b>
6.1 オーディオトラック .....	23
6.2 MIDIトラック .....	23



6.3トラックの編集 .....	23
<b>7. シーケンサー .....</b>	<b>24</b>
7.1 パターンの選択 .....	24
7.2 パターン制御 .....	24
7.3 パターンレコーディングモード .....	24
7.4 トリガータイプ .....	24
7.5 TRIGページ .....	25
7.6 GRID RECORDINGモード .....	25
7.7 LIVE RECORDINGモード .....	26
7.8 パラメータロック .....	26
7.9 パターンのスケール .....	27
7.10 パターンのスイング .....	27
<b>8. サンプリング .....</b>	<b>28</b>
8.1 外部入力からのサンプリング .....	28
8.2 +Driveからトラックへのサンプルの割り当て .....	29
8.3 サンプル再生 .....	30
<b>9. 技術情報 .....</b>	<b>32</b>
<b>10. 著作権者および問い合わせ先情報 .....</b>	<b>33</b>
<b>索引 .....</b>	<b>34</b>

# 1.はじめに

---

## 1.1 本マニュアルの表記

本マニュアルでは、次の表記を使用します。

キーの名前は、大文字、太字、括弧で囲んで表記します。たとえば、メインパネルの「FUNC」というキーは **[FUNC]** と表記します。

ノブは、大文字、太字、斜体で表記します。たとえば、「Level/Data」ノブは **LEVEL/DATA** と表記します。

Chromatic LED などの LED インジケータは、<CHROMATIC> のように表記します。

メニュー名は、大文字で表記します。たとえば、SETTINGS メニューのように表記します。

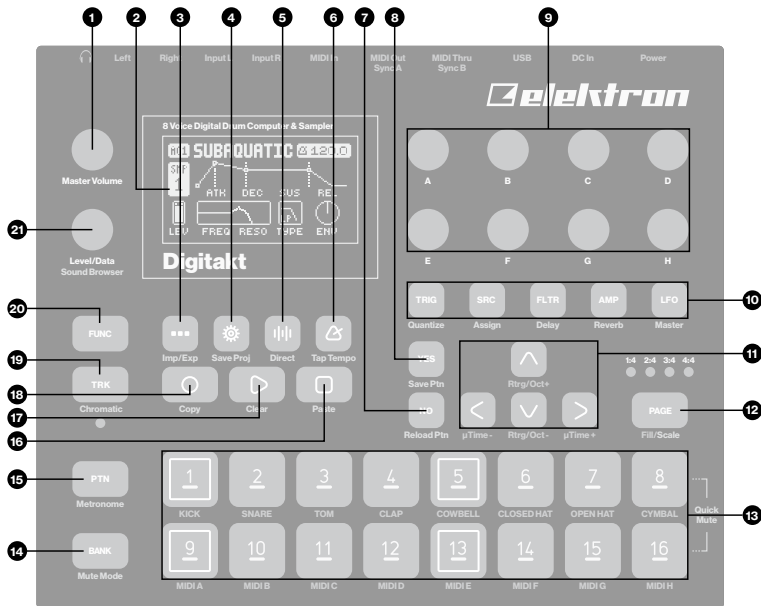
設定可能な、または実行可能なアクションのパラメータ名や特定のメニュー項目は、太字かつ大文字で表記します。たとえば、**VOL** のように表記します。

パラメータ設定の選択肢には、大文字で表記します。たとえば、OFF などです。


画面表示されるメッセージは、大文字で引用符を付けて表記します。たとえば、"QUANTIZE LIVE REC" のように表記します。

## 2. パネルレイアウトと接続

### 2.1 フロントパネルのコントロール



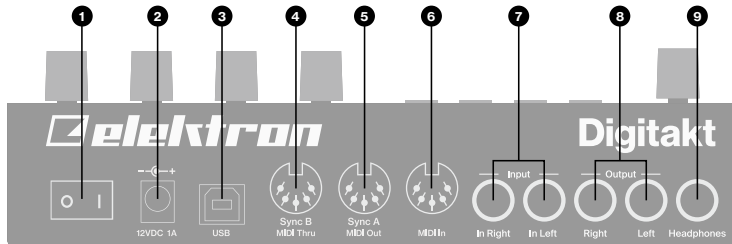
1. **MASTER VOLUME** : メイン出力とヘッドフォン出力の音量を設定します。
2. 画面。
3. **[PATTERN]** : **[FUNC]** PATTERN メニューを開きます。ここで、パターン管理を行います。二次機能として、Import/Export メニューにアクセスできます。

4. **[SETTINGS]**:  プロジェクト管理、MIDI 構成、およびシステム設定が行えます。二次機能として、現在のプロジェクトを保存できます。
5. **[SAMPLING]**:  SAMPLING メニューを開きます。ここで、サンプリングを実行します。二次機能として、ダイレクトサンプリングを開始できます。
6. **[TEMPO]**:  TEMPO メニューを開きます。ここで、グローバル / パターンテンポの調整とスイングの調整ができます。二次機能として、テンポをタップすることができます。
7. **[NO]** キー: アクティブなメニューの終了、ステップを1つ戻る、および無効化に使用します。二次機能として、アクティブなパターンを再読み込みできます。
8. **[YES]** キー: サブメニューの入力、選択、および確認に使用します。二次機能として、アクティブなパターンを保存できます。
9. **DATA ENTRY** ノブ **A ~ H**: パラメータ値の設定に使用します。ノブを押して回すと、大きな単位で値を変更できます。
10. **[PARAMETER]** キー: アクティブなトラックの PARAMETER ページにアクセスします。キーの色は、ページがアクティブ (赤 / オレンジ) か非アクティブ (オフ) かを示します。
  - **[TRIG PARAMETERS]**: **NOTE**、**VELOCITY**、その他の関連パラメータにアクセスします。二次機能として、**QUANTIZE** メニューにアクセスできます。
  - **[SRC]**: オーディオトラックでサンプル再生を処理する **SOURCE** ページを表示します。MIDI トラックの場合、このページには **CHANNEL**、**PROGRAM**、**AFTERTOUCH** などのパラメータがあります。二次機能として、**SAMPLE SELECT** にアクセスできます。
  - **[FLTR]**: **FILTER** ページにアクセスします。ここには、マルチモードフィルターのパラメータと、オーディオトラックのフィルターエンベロープがあります。二次機能として、**DELAY** ページにアクセスできます。
  - **[AMP]**: **AMP** ページを表示します。ここには、振幅エンベロープとエフェクトセンドのパラメータがあります。MIDI トラックでは、ここに **CC** 設定があります。二次機能として、**REVERB** ページにアクセスできます。
  - **[LFO]**: アクティブなトラックの **LFO** パラメータにアクセスします。二次機能として、**MASTER** ページにアクセスできます。
11. **[ARROW]** キー: 移動および一部のパラメータ値の設定に使用します。メニューでは **[UP]**、**[DOWN]**、**[LEFT]** および **[RIGHT]** と示されます。
12. **[PAGE]**: 16 ステップ以上のパターンの場合にアクティブなパターンページを選択します。<PATTERN

PAGE> LED は、アクティブなパターンがいくつかのパターンページで構成されているかと、どのパターンページが現在アクティブかを示します。現在再生中のパターンページの LED が点滅します。二次機能として、SCALE メニューにアクセスできます。また、このキーを押すとフィルモードがアクティブになります（GRID RECORDING モードがアクティブでない場合）。

13. **[TRIG]** キー : **DATA ENTRY** ノブと組み合わせてシーケンサートリガーの入力および削除、およびパラメータロックに使用します。また、**[TRK]**、**[PTN]**、および **[BANK]** キーと組み合わせてトラック、バンク、パターンの選択にも使用します。**[TRIG]** キーは、CHROMATIC モードでキーボードとしても使用されます。二次機能として、トラックのクイックミュート機能があります。  
**[TRIG]** キーライトは、シーケンサーでのトリガーキーが赤く点灯し、GRID RECORDING モードのパラメータでは、キーが赤く点滅します。パターンを再生しているとき、または LIVE RECORDING が有効になっているときは、シーケンサーの 16 のステップが、設定されているテンポですべて（最大 4）のページが順番に光ります。
14. **[BANK]** : **[TRIG]** キー 9 ~ 16 を組み合わせて、バンク A ~ H を選択します。二次機能として、MUTE モードにアクセスできます。
15. **[PTN]** : **[TRIG]** キー 1 ~ 16 を組み合わせて、パターン 1 ~ 16 を選択します。二次機能として、METRONOME メニューを開くことができます。
16. **[STOP]** : 再生を停止します。二次機能として、貼り付け操作を行えます。
17. **[PLAY]** : シーケンサーの再生を開始します。二次機能として、クリア操作を行えます。
18. **[RECORD]** キー : GRID RECORDING モードをアクティブ化 / 非アクティブ化します。**[RECORD]** を押したままにして、**[PLAY]** を押すと、LIVE RECORDING モードがアクティブになります。**[RECORD]** を押したまま **[PLAY]** を 2 回タップすると LIVE RECORDING の QUANTIZATION をアクティブ化 / 非アクティブ化できます。二次機能として、コピー操作を行えます。
19. **[TRK]** キー : **[TRK]** と **[TRIG]** キーのいずれかを押すと、編集するトラックを選択できます。二次機能として、CHROMATIC モードにアクセスできます。
20. **[FUNC]** キー : 押したまま別のキーを押すと、そのキーの二次機能にアクセスできます。二次機能は、Digitakt フロントパネルにオレンジで表記されています。
21. **LEVEL/DATA** : アクティブなトラックの全体のボリュームレベルを設定します。また、パラメータの設定やリストのスクロールに使用されます。二次機能として、サウンドのブラウズ機能があります。

## 2.2 背面パネルの接続



1. **POWER:** 機器のオン / オフスイッチ。
2. **DC In:** 電源入力。PSU-3b 電源アダプタを使用して電源コンセントに接続します。
3. **USB:** コンピュータにユニットを接続します。MIDI コントロールまたは Overbridge で使用します。付属の A-B USB 2.0 コネクタケーブルを使用してコンピュータのホストに接続します。
4. **MIDI THRU/SYNC B:** MIDI IN からデータを転送します。また、DIN sync を従来の機器に送信するように構成することもできます。標準 MIDI ケーブルを使用してチェーン内の別の MIDI ユニートを接続します。
5. **MIDI OUT/SYNC A:** MIDI データ出力。また、DIN sync を従来の機器に送信するように構成することもできます。標準 MIDI ケーブルを使用して外部 MIDI ユニートの MIDI In に接続します。
6. **MIDI IN:** MIDI データ入力。標準 MIDI ケーブルを使用して外部 MIDI ユニートの MIDI Out に接続します。
7. **INPUT L/R:** オーディオ入力。1/4" モノラルフォンプラグ（アンバランス接続）を使用します。
8. **OUTPUT L/R:** メインオーディオ出力。1/4" モノラルフォンプラグ（アンバランス接続）または 1/4"（チップ / リング / スリーブ）フォンプラグ（バランス接続）を使用します。
9. **HEADPHONES:** ステレオヘッドフォンのオーディオ出力。1/4"（チップ / リング / スリーブ）フォンプラグを使用します。

## 2.3 Digitaktの設定と開始

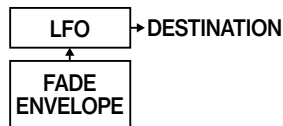
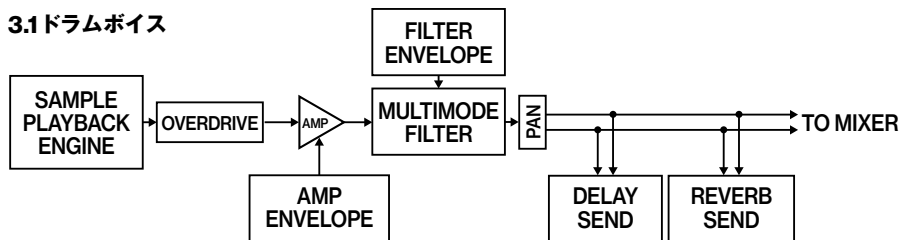
Digitakt を、十分なケーブルスペースがある、頑丈で安定したテーブルなどの上に置いてください。Digitakt を他のユニットに接続する前に、すべてのユニットがオフになっていることを確認します。

1. 電源コンセントに付属の DC アダプタを接続し、小型プラグを Digitakt の 12 V DC In に接続します。
2. ミキサーまたはアンプに Digitakt からの OUTPUT L/R を接続します。
3. コンピュータから Digitakt を操作する場合は、Digitakt の USB コネクタとコンピュータ間を USB ケーブルで接続します。また、これらの作業で使用する Overbridge Suite をダウンロードしてインストールする必要があります。
4. MIDI を使用して Digitakt を操作する場合、データを送信する機器の MIDI OUT ポートを Digitakt の MIDI IN ポートに接続します。MIDI THRU ポートで、MIDI IN ポートに送信されたデータがコピーされるため、MIDI ユニットのチェーン接続にも使用できます。Digitakt を使用して MIDI 搭載のその他の機器を操作する場合、Digitakt の MIDI OUT ポートを、操作する機器の MIDI IN ポートに接続します。
5. 外部ソースからオーディオのサンプリングをする場合、音源を INPUT L/R または USB 経由で接続します。
6. すべての機器の電源をオンにします。Digitakt の電源は、機器背面にある電源スイッチを押してオンにします。

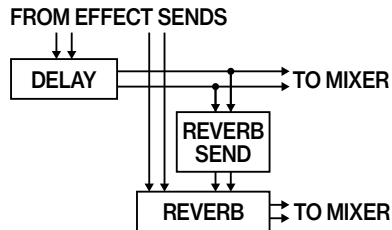
### 3. サウンドアーキテクチャ

下の図は、8つのドラムボイスと2つのセンドエフェクト（ディレイとリバーブ）を使用した Digitakt のサウンドアーキテクチャを示します。

#### 3.1 ドラムボイス



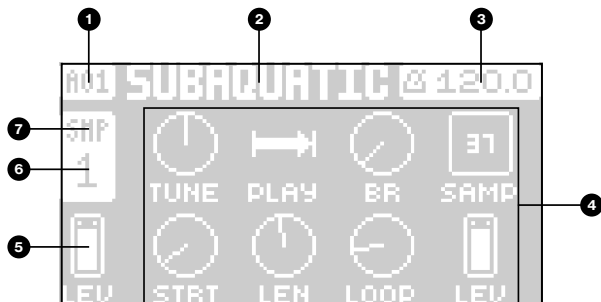
#### 3.2 エフェクト





## 4. ユーザーインターフェイス

画面には、リアルタイム操作と、Digitakt の編集に必要なすべての情報が表示されます。状況によって異なる 8 つの **DATA ENTRY** ノブパラメータが表示されます。以下は、SRC ページのメインインターフェイスの画面です。



1. 現在のバンクとパターン。
2. 現在のパターン名。
3. 現在のテンポ。
4. 8 つのトラックパラメータ。 **DATA ENTRY** ノブのコントロールと、現在のパラメータ値が表示されます。
5. アクティブなトラックのメインボリュームを示すバー。ボリューム設定を変更するには、**LEVEL/DATA** ノブを使用します。
6. 現在のトラック数。
7. トラックタイプ。サンプル（オーディオ）トラックまたは MIDI トラック。

### 4.1 画面の移動

[UP]、[DOWN]、[LEFT] または [RIGHT] の [ARROW] キーを使用して、メニューやサブメニュー内を移動します。 **LEVEL/DATA** ノブを使用して、メニューやリストをすばやくスクロールできます。

[YES] は、確認、選択、サブメニューの表示、ボックスのチェック / チェックを外す際に使用します。

[NO] は無効化、選択解除、1つまたは複数の手順を進めたり戻ったりする際に使用します。

## 4.2 パラメータ編集

**DATA ENTRY** ノブは、トラックパラメータの値の変更に使用します。画面上のパラメータの位置は、フロントパネルのノブの物理的な位置に対応しています。画面のパラメータのうちいくつかは、どの **DATA ENTRY** ノブで特定のパラメータを制御するかを示します。たとえば、“(E)” のように表示されます。

- **DATA ENTRY** ノブを押しながら回すと、大きな単位でパラメータを調整できます。パラメータ全体の範囲を素早く進めることができます。
- **DATA ENTRY** ノブと **[NO]** を押すと、パラメータがデフォルト値にリセットされます。
- **[PARAMETER]** キーと **[PLAY]** を押すと、選択したパラメータグループがデフォルト値にリセットされます。
- **[PARAMETER]** キーを押したままにすると、パラメータの正確な値が表示されます。

## 4.3 パラメータ値のジャンプ

特定のパラメータの編集集中に、**[FUNC]** を押すと、パラメータ値が適切な位置にジャンプします。たとえばディレイ時間では、値の倍増や半減が行われ、サンプルチューニングが、オクターブ全体分ジャンプします。

## 4.4 [FUNC]キーとの組み合わせ

**[FUNC]** キーを他のキーと組み合わせで使用する場合、通常の操作では **[FUNC]** キーを押したまま 2 番目のキーを短く押します。また、一部のキーの組み合わせでは、**[FUNC]** キーを押したまま 2 番目のキーを 1 秒間押し、サブメニューにアクセスすることができます。

## 4.5 クイックスクロール

**LEVEL/DATA** ノブを使用してメニューをスクロールします。クイックスクロールは、多くのメニューで使用できます。**[FUNC]** キーと **[UP]** または **[DOWN]** キーを押すと、カーソルが 1 つのメニューページ分移動します。

## 4.6 コピー、クリア、貼り付け

コピー、クリア、貼り付けコマンドは、さまざまな場合に利用できます。[FUNC]と[REC]を押すとコピーします。[FUNC]と[STOP]を押すと貼り付けをします。[FUNC]と[PLAY]を押すとクリアします。貼り付け操作とクリア操作は、このキーの組み合わせをもう一度押すと取り消すことができます。これらのコマンドを使用できる場合については、Digitakt ユーザーマニュアルの別のセクションを参照してください。

## 4.7 名前を付ける画面

名前付けの方法は、サンプル、サウンド、プロジェクトなどを保存する際の名前を付ける場合で共通です。



[LEFT] および [RIGHT] 矢印キーを使用して、文字間を移動します。LEVEL/DATA ノブを回すか、[UP] または [DOWN] 矢印キーを押すと、文字を順番に移動します。[FUNC]と[NO]を押すと文字が消去されます。[FUNC]を押したままにすると、名前を付けるためのポップアップメニューが表示されます。

## 4.8 OVERBRIDGE

Overbridge ソフトウェアスイートで、Digitakt とコンピュータの DAW を密接に統合できます。

Overbridge セットアップを使用すると、Digitakt のユーザーインターフェイスそのものが DAW のプラグインウィンドウに分かりやすく表示されます。画面上でサウンド形状のパラメータにアクセスし、編集または自動化ができます。便利なトータルリコール機能を使用すると、DAW プロジェクトに戻った時に、中断した時点と同じ状態に機器

のパラメータがプリセットされます。

Digitakt、USB ケーブル、Overbridge が搭載されたコンピュータおよび DAW が必要です。

**注意：Digitakt で Overbridge を使用するには、Digitakt OS 1.10 以降および Overbridge 1.20 以降を使用する必要があります。**

Overbridge の Digitakt での使用の詳細については、Elektron Web サイトを参照してください。

セットアップ、使用、および機能の詳細については、Overbridge ユーザーマニュアル（Elektron Web サイトの Support セクションからアクセス可能）を参照してください。

## 5. パターンの操作

---

### 5.1 工場出荷時プリセットの再生

Digitakt には多くのプリセットパターン、サウンド、サンプルがあります。新しい機器の操作を開始するには、以下の手順に従ってください。

1. **[BANK]** と **[TRIG 9]** キーを押してバンク A を選択します。
2. **[PTN]** と **[TRIG 1]** キーを押してバンク A の最初のパターンを選択します。
3. **[PLAY]** を押してパターン A01 を再生します。
4. **[PTN]** と **[TRIG 2]** キーを押してパターン A02 を選択します。パターン A01 の最後まで来ると、再生が開始されます。**[PTN]** と **[TRIG 3]** を押してパターン A03 を選択して同様に操作します。
5. 再生を停止するには **[STOP]** を押します。

### 5.2 CHROMATICモードの使用

**[TRIG]** キーを使用して、任意のオーディオトラックのサンプルをクロマチックで再生することができます。

1. **[TRK]** と **[TRIG 1-8]** キーのいずれかを押して、クロマチックで再生するドラムトラックを選択します。
2. **[FUNC]** と **[TRK]** を押して CHROMATIC モードにします。**[TRIG]** キーが、ピアノの鍵盤配列のオクターブに合わせ、パターンで点灯します。点灯したキーのみが再生可能です。
3. **[TRIG]** キーで演奏します。アクティブなトラックのサウンドが、再生可能なキーそれぞれで異なるピッチになります。**[ARROW]** キーの **[UP]** または **[DOWN]** を押すと、仮想キーボードが上下 1 オクターブ移調します。

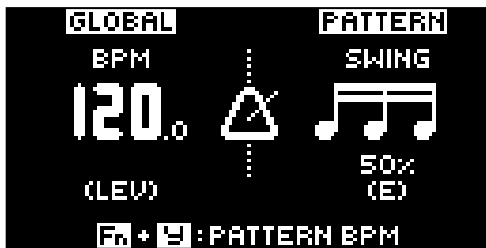
### 5.3 ミュートモードの使用

このモードでは、シーケンサトラックのいずれかをミュートできます。CHROMATIC モードとは異なり、このモードをアクティブにしたときにアクティブになるトラックに違いはありません。すべてのトラックに同時にアクセスすることができます。

1. パターンが再生されていることを確認します。
2. [FUNC] と [BANK] キーを押して MUTE モードにします。
3. [TRIG] キーを押すと、対応するトラックがミュートされます。再度押すと、ミュートが解除されます。[TRIG] キーの色は、ミュートの状態を示します。キーが消灯しているトラックはミュートされています。緑のキーは、アクティブなトラックです。

## 5.4 テンポ

BPM 設定を変更するには、[TEMPO] キーを押して TEMPO メニューを開きます。テンポを変更するには、**LEVEL/DATA** ノブを使用します。ノブを押しながら回すと、テンポが一度に 8BPM 変化します。[ARROW] キーの [UP] または [DOWN] で、テンポが段階的に変化します。グローバルテンポとセパレートテンポの両方をすべてのパターンに対して設定できます。メインインターフェイス画面で [ARROW] キーの [LEFT] または [RIGHT] を押したままにすると、テンポが一時的に 10% 速くまたは遅くなります。元のテンポに戻すにはキーを放します。



## 6.トラックについて

---

### 6.1 オーディオトラック

Digitakt には、8 つのオーディオトラックがあります。各オーディオトラックには、1 つのサウンドと、PARAMETER ページの TRIG、SRC、FLTR、AMP、LFO パラメータ設定があります。

編集するオーディオトラックを選択するには、[TRK] キーを押して [TRIG 1 ~ 8] キーのいずれかを押しします。

### 6.2 MIDIトラック

Digitakt には、8 つの専用 MIDIトラックもあります。MIDIトラックは、外部 MIDI 搭載機器の制御に使用されます。各 MIDIトラックは、最大 4 つの音符のコードをトリガできます。また、ベロシティや長さ、コントロールピッチバンドおよびアフタータッチなどのパラメータと、8 つの自由に割り当て可能なコントロールチェンジパラメータを有しています。

MIDIトラックの機能はオーディオトラックとほぼ同じで、パラメータロック、LFO モデューション、マイクロタイミング、RETRIG、TRIG 条件、各トラックの長さおよび拍子記号設定などの機能があります。

編集する MIDIトラックを選択するには、[TRK] キーを押して [TRIG 9 ~ 16] キーのいずれかを押しします。

### 6.3 トラックの編集

5 つの [PARAMETER] キーで、トラックの編集に使用されるパラメータページが開きます。TRIG ページには、NOTE、VELOCITY、その他の TRIG 関連パラメータなどの各種パラメータがあります。SRC ページには、サンプル選択とオーディオトラック上のサンプルの編集を行うパラメータがあります。MIDIトラックの場合、このページには CHANNEL、PROGRAM、AFTERTOUCH などのパラメータがあります。FLTR ページには、マルチモードフィルターのパラメータと、オーディオトラックのフィルターエンベロープがあります。オーディオトラックの AMP ページには、振幅エンベロープとエフェクトセンドのパラメータがあります。MIDIトラックでは、ここに CC 設定があります。最後の LFO ページには、アクティブなトラックの LFO パラメータがあります。DATA ENTRY ノブの A ~ H を使用して、対応するパラメータを編集します。ノブを押しながら回すと、大きい単位でパラメータを調整できます。

## 7. シーケンサー

---

Digitaktのシーケンサーでは、パターンに情報を格納します。パターンは、オーディオトラックとMIDIトラックの再生を、シーケンサーで入力したトリガーにより制御します。

### 7.1 パターンの選択

1. **[BANK]**と**[TRIG 9 ~ 16]**キーを押してバンクA~Hを選択します。
2. **[PTN]**と**[TRIG 1 ~ 16]**キーを押してパターン1~16を選択します。

データを含むパターンは、**[TRIG]**キーが白になります。現在アクティブなパターンは、**[TRIG]**キーが赤になります。パターンが空のスロットは、**[TRIG]**キーが消灯します。

### 7.2 パターン制御

パターンの再生を開始するには**[PLAY]**を押します。一時停止するには再度**[PLAY]**を押します。再生を停止するには**[STOP]**を押します。サウンドはカットオフされますが、ディレイのようなエフェクトは、ディレイのリビートがフェードアウトするまで聞こえ続けます。**[STOP]**を素早く2回押しすと、すべてのトラックの再生が停止して、センドエフェクトがフェードアウトします。

再生中にパターンを変更すると、現在再生中のパターンの最後に到達した後に、パターンが変更されます。

### 7.3 パターンレコーディングモード

Digitaktには、パターンの作成時にトリガーの入力モードが2つあります。GRID RECORDINGモードとLIVE RECORDINGモードです。新しいパターンを作成するには、まず、バンクのいずれかで空のパターンのスロットを選択します。

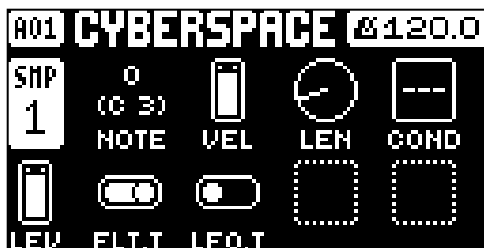
### 7.4 トリガータイプ

RECORDINGモードでは、ノートトリガーとトリガレスロックの2種類のトリガーを入力できます。ノートトリガーは、選択したトラックのサウンドまたはMIDIノートをトリガーします。トリガレスロックは、ノートをトリガーせずにパラメータロックを適用する場合に使用できます。ノートトリガーは**[TRIG]**キーが赤になり、トリガレスロックは**[TRIG]**キーが点滅します。消灯した**[TRIG]**キーは、任意のトリガーが含まれないステップを示します。



## 7.5 TRIGページ

アクティブなトラックの一般的なトリガーアクションを指定するには、**[TRIG]** を押します。設定を変更するには、**DATA ENTRY** ノブを使用します。パラメーターがロックされているトリガー設定は一般設定を上書きします。



## 7.6 GRID RECORDINGモード

GRID RECORDING は、**[TRIG]** キーを使用してパターングリッドにトリガーを追加する構成方法です。

1. **[REC]** キーを押して、GRID RECORDING モードにします。**[REC]** キーが赤に点灯し、GRID RECORDING モードがアクティブであることを示します。
2. トリガーを追加するトラックを、**[TRACK]** を押したままにしてから **[TRIG]** キーのいずれかを押して選択します。アクティブなトラックは **[TRIG]** キーが赤になります。
3. 16 個の **[TRIG]** キーを使用して、シーケンサーにノートリガーを配置します。トリガレスロックを追加するには、**[FUNCTION]** と **[TRIG]** を押します。トリガレスロックは、ノートリガーを含むものを含めたシーケンサーのステップで入力できます。入力したトリガーの **[TRIG]** キーを素早く押し、トリガーが削除されます。トリガーの **[TRIG]** キーを少し長く押し続けると、トリガーが削除されるのではなく、編集ができるようになります。
4. 別のトラックを選択し、ノートリガーとトリガレスロックを追加します。使用するすべてのトラックでこの手順を繰り返します。
5. **[PLAY]** を押して、シーケンスを再生します。

## 7.7 LIVE RECORDINGモード

LIVE RECORDING モードは、トラックにトリガーを追加する 2 番目の方法です。このレコーディングモードでは、すべての **[TRIG]** キーがリアルタイムで再生され、トラックにトリガーが入力されます。また、リアルタイムでパラメータロックを入力することができます。

1. **[RECORD]** を押したまま、**[PLAY]** を押して、LIVE RECORDING モードにします。**[PLAY]** を素早く 2 回押しながら、**[RECORD]** キーを押すと、クオンタイゼーションがアクティブ化 / 非アクティブ化されます。シーケンサーが再生を開始し、**[RECORD]** キーが赤く点滅を始めます。
2. **[TRIG]** キーをタップすると、シーケンサーのすべてのトラックにトリガーがリアルタイムで入力されます。
3. **[PLAY]** を押すと、LIVE RECORDING モードは終了しますが、シーケンサーの再生は続きます。LIVE RECORDING モードがアクティブの時に **[RECORD]** を押すと、GRID RECORDING モードがアクティブになります。
4. レコーディングとシーケンサーの再生の両方を停止するには **[STOP]** を押します。

## 7.8 パラメータロック

パラメータロックにより、一意のパラメータ値をトリガーに付与できます。トラックのすべてのノートトリガーには、異なるピッチまたはフィルター設定などを付与することができます。サウンドと MIDI トラックの両方に対して、パラメータロックを適用できます。

GRID RECORDING モードで、トリガーの **[TRIG]** キーを押したままにして、ロックするパラメータを **DATA ENTRY** ノブを使用して調整し、パラメータロックをかけます。画面上のグラフィックは、ロックされたパラメータで逆になり、ロックされたパラメータの値が表示されます。ロックされたトリガーの **[TRIG]** キーが点滅を始め、トリガーに現在パラメータロックがあることを示します。

**[FUNC]** と **[TRIG]** を押して、トリガレスロックを入力します。トリガレスロックを使用すると、ノートをトリガーせずにサウンドを変調できます。トリガレスロックは、**[TRIG]** キーが黄色になります。

**[TRIG]** を押したままロックされたパラメータの **DATA ENTRY** ノブを押すとパラメータロックが単独で削除されます。ノートトリガーを削除してから再度入力すると、すべてのパラメータロックがトリガーから消去されます。

LIVE RECORDING モードでは、**DATA ENTRY** ノブを回してパラメータロックを追加します。それに応じて、パラメータがロックされ、シーケンサーのステップ上に配置されます。

また、LIVE RECORDING モードでは、シーケンサーが通過したパラメータロックをリアルタイムで消去することができます。**[FUNC]**と**[NO]**を押すと、すべてのパラメータロックが消去されます。**[NO]**と**DATA ENTRY** ノブを押すと、**DATA ENTRY** ノブで制御しているパラメータのパラメータロックが消去されます。

## 7.9 パターンのスケール

パターンの長さやタイミングを変更することが可能です。画面の左端の数値は、パターンのステップ数を示しています。その右側に示されている合計長で、ステップの最大数を判別します。画面の右端には、パターンの拍子記号が示されています。パターンに 17 以上のステップがある場合で GRID RECORDING モードの場合は、**[PAGE]** キーで別のパターンページに切り替えることができます。

1. **[FUNC]**と**[PAGE]**を押して、**[SCALE]**メニューにアクセスします。
2. **[ARROW]** キーの**[LEFT]**と**[RIGHT]**を使用して、ステップ長 / 全長または拍子記号を切り替えます。
3. **[ARROW]** キーの**[UP]**と**[DOWN]**を使用して、設定を変更します。**LEVEL/DATA** ノブを使用しても、同様の設定を変更することができます。

## 7.10 パターンのスイング

パターンのスイング設定を調整して、推進力のあるリズムカルなグループを実現します。

1. **[TEMPO]**を押して、テンポ / スイングメニューにアクセスします。
2. **DATA ENTRY** ノブ **E** を回して、**SWING** 率を 50% から 80% に設定します。デフォルトの設定は等間隔の 50% です。

## 8. サンプリング

Digitakt ではオーディオのサンプリングも可能です。外部入力または USB 経由で、外部ソースからのオーディオをサンプリングすることができます。また、Digitakt 自体からオーディオをサンプリングすることもできます。



### 8.1 外部入力からのサンプリング

1. オーディオソースを Digitakt の **INPUT L/R** 入力に接続します。
2. **[SAMPLING]** を押して、**SAMPLING** メニューにアクセスし、**DATA ENTRY** ノブ **G** を使用して **SOURCE** を **EXT L+R** に設定します。
3. オーディオ入力メーターに注目したままオーディオソースを再生し、オーディオソースの音量が、クリッピングしない範囲で可能な限り高くなっていることを確認します。**MON** を **YES** に設定して、Digitakt 経由の受信オーディオをモニタリングします。
4. 再度、オーディオ入力メーターに注目したまま、**DATA ENTRY** ノブ **F** を使用して、**THRESHOLD** をオーディオソースのバックグラウンドノイズちょうどに来るように設定します（再生されていない場合）。
5. **[YES]** を押して、サンプリング可能な状態にし、サウンドソースを再生します。入力オーディオが設定された **THRESHOLD** レベルを超えると、サンプリングが開始します。
6. 希望の位置で **[YES]** を押して、サンプリングを終了します。
7. **DATA ENTRY** ノブ **A** および **C** を使用して、パラメータ **TRIM START** および **TRIM END** を設定し、サンプリングを希望の長さにとりミングします。**DATA ENTRY** ノブ **B** および **D** を使用すると、ズームインおよびズームアウトができ、サンプリングのトリミング位置が見分けやすくなります。**[FUNC]** と **[YES]** を押すと、サンプルがプレビューされます。



8. **[YES]** を押してサンプルを保存します。
9. サンプルの名前を付けて **[YES]** を再度押し、保存を確定します。
10. **[TRACK 1～8]** を押して、サンプルを割り当てるトラックを選択します。

## 8.2 +Driveからトラックへのサンプルの割り当て

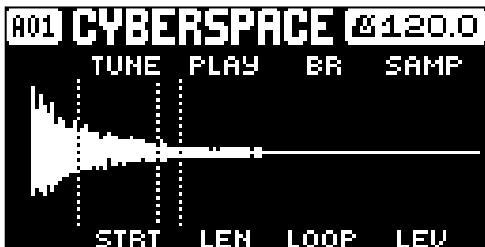
Digitakt の +Drive ストレージからのサンプルをトラックに割り当てることもできます。

1. **[SETTINGS]** を押して SETTINGS メニューにアクセスし、SAMPLES を選択して **[YES]** を押します。
2. **[ARROW]** キーを使用して、割り当てるサンプルに移動して **[YES]** を押してサンプルを選択します。
3. **[RIGHT]** を押して、LOAD TO PROJ を選択して **[YES]** を押し、サンプルをコピーしてプロジェクトにロードします。
4. **[YES]** を押して確定します。
5. **[FUNC]** と **[SETTINGS]** を押して、SETTINGS メニューを終了します。
6. **[TRACK]** と **[TRIG 1～8]** を押して、サンプルを割り当てるトラックを選択します。
7. **[SRC]** を押して SOURCE メニューにアクセスし、**DATA ENTRY** ノブ **D** を使用してロードするサンプルを選択します。
8. **[YES]** を押してサンプルをトラックにロードします。

### 8.3 サンプル再生

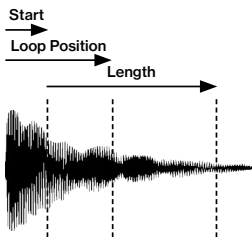
サンプルをトラックに割り当てると、シーケンサーで、または手動でトリガーできます。また、サンプルの再生モードと、サンプルの再生部分を編集することができます。

1. **[SRC]** を押して SOURCE メニューにアクセスします。
2. **DATA ENTRY** ノブ **B** を使用して、サンプルの **PLAY MODE** の挙動を設定します。
  - **REVERSE** : サンプルは、トリガーされるたびに逆再生されます。
  - **REVERSE LOOP** : サンプルは、ループ位置と長さで連続して逆ループ再生されます。ループ時間は、TRIG ページの LEN パラメータで設定します。この時間は、AMP ページのエンベロープパラメータ設定の **HLD** および **DEC** によっても制限されます。
  - **FORWARD LOOP** : サンプルは、ループ位置と長さで連続してループ再生されます。ループ時間は、TRIG ページの LEN パラメータで設定します。この時間は、AMP ページのエンベロープパラメータの **HLD** および **DEC** によっても制限されます。
  - **FORWARD** : サンプルは、トリガーされるたびに再生されます。
3. **DATA ENTRY** ノブ **E**、**F**、および **G** を使用して、サンプルのどの部分を再生するかを定義する **STRT**、**LEN**、**LOOP** パラメータを設定します。**[SRC]** を 2 回押すと、SRC ページ 2 が表示され、サンプル波形でのこれらの設定を簡単に確認できます。

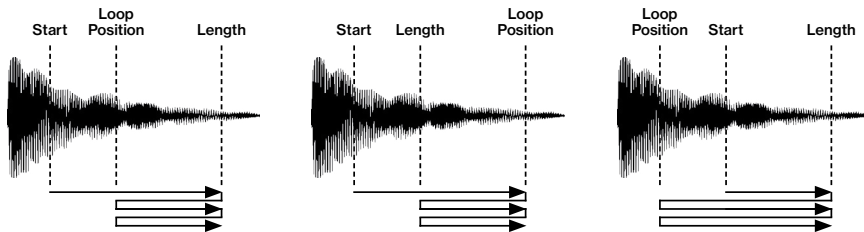


- **STRT** : Start は、サンプルの再生の開始位置を設定します。
- **LEN** : Length は、サンプルの再生の長さを設定します。Start と Length を合わせて、再生されるサンプルの部分の終了点を効率的に定義できます。
- **LOP** : Loop Position は、**PLAY MODE** が FORWARD LOOP または REVERSE LOOP に設定されている場合、サンプルの位置を設定します。Length Position (**STRT** と **LEN** で定義) から戻るサンプルの位置を設定します。その後サンプルは、**LEN** の最後、および **LOOP** 間をループします。

**STRT**、**LEN**、および **LOOP** パラメータ。



FORWARD LOOP 再生モード。



## 9. 技術情報

---

### 電気的仕様

#### インピーダンスバランスオーディオ出力

メイン出力レベル: +22 dBu ピーク

出力インピーダンス: 440  $\Omega$ アンバランス

デジタル S/N 比: 108 dB (20 ~ 20,000 Hz)

#### ヘッドフォン出力

ヘッドフォン出力レベル: +22 dBu ピーク

出力インピーダンス: 55  $\Omega$

#### バランスオーディオ入力

入力レベル: +19 dBu ピーク

オーディオ入力インピーダンス: 11 k  $\Omega$

デジタル S/N 比: 110 dB (20 ~ 20,000 Hz)

機器の消費電力: 7W ティピカル

互換性のある Elektron 社製電源: PSU-3b

### ハードウェア

128 × 64 ピクセル OLED スクリーン

DIN Sync アウトプット端子による MIDI In/Out/Thru

1/4" インピーダンスバランスオーディオ出力 × 2

1/4" オーディオ入力ジャック × 2

1/4" ステレオヘッドフォンジャック × 1

48 kHz、24 ビット D/A、A/D コンバーター

電気絶縁された高速 USB 2.0 ポート

電源インレット: センターポジティブ 5.5 × 2.5 mm バレルジャック、12 V DC、1 A

### 物理的仕様

頑丈なスチールケース

寸法: 幅 215 × 奥行き 176 × 高さ 63 mm (8.5" × 6.9" × 2.5") (ノブと脚を含む)

重量: 約 1.45 kg (3.2 lbs)

100 × 100 mm VESA 取り付け穴。最大長 7 mm の M4 ネジを使用します。

最大推奨動作環境

温度: 40°C (+104°F)



## 10. 著作権者および問い合わせ先情報

---

### 著作権者

#### 製品設計・開発

Oscar Albinsson  
Ali Alper Çakır  
Oscar Dragén  
Magnus Forsell  
Anders Gärder  
Fabian Hundertmark  
Christer Lindström  
Jimmy Myhrman  
Jon Mårtensson  
David Revelj  
Mattias Rickardsson

#### その他の設計

Johan Damerau  
Ufuk Demir  
Thomas Ekelund  
Simon Mattisson  
Olle Petersson  
Cenk Sayınlı

#### ドキュメント

Erik Ångman

### お問い合わせ先

#### Elektron Web サイト

<http://www.elektron.co.jp>

#### 会社所在地

Elektron Music Machines Japan K.K.  
〒151-0053  
東京都渋谷区代々木 4-28-8  
村田マンション 311号

#### 電話

03 6300 7601

# 索引

---

## 力行

画面の移動 17

技術情報 32

コピー、クリア、貼り付け 19

## サ行

サウンドアーキテクチャ 16

サンプリング 28

- +Driveからのサンプルの割り当て 29
- サンプル再生 30
- 外部入力からのサンプリング 28

シーケンサー 24

- Grid recording モード 25
- Live recording モード 26
- パラメータロック 26
- パターン制御 24
- パターンレコーディングモード 24
- パターンのスケール 27
- パターンのスイング 27
- パターンの選択 24
- トリガーセットアップ 25
- トリガータイプ 24

## タ行

テンポ 22

トラック 23

- オーディオトラック 23
- 編集 23
- MIDIトラック 23

トリガー

- トリガーセットアップ 25
- トリガータイプ 24

## ハ行

パターン

- Chromatic モード 21
- パターンの操作 21
- MUTEモード 21
- パターンのスケール 27
- パターンのスイング 27

パターンのスイング 27

パネルレイアウトと接続 11

- フロントパネルのコントロール 11
- 背面パネルの接続 14

パラメータ

- 編集 18
- 値のジャンプ 18

パラメータロック 26

## ヤ行

ユーザーインターフェイス 17

## ラ行

レコーディングモード 24

- GRID RECORDINGモード 25
- LIVE RECORDINGモード 26

## A-Z

[FUNC]キーとの組み合わせ 18

OVERBRIDGE 19

## Elektron 3年間保証

Elektron 製品には、元の購入日から3年間の限定保証が付いています。保証を受けるには、請求書や領収書などで元の購入日を証明する必要があります。保証期間内に製品の修理が必要な場合、部品や作業代はかかりません。

Elektron 製品が保証期間内に他の所有者に譲渡する場合、この保証も譲渡可能です。Elektron Style シリーズの製品（Tシャツ、ステッカー、ポスターなど）はこの保証の対象外です。

(a) 事故、過失、誤用、濫用、不適切な設置または操作、または本製品のクイックガイドマニュアルまたはユーザーマニュアル完全版の指示に従わない場合、および製品出荷時（苦情は運送会社にお問い合わせください）、および Elektron または認定された Elektron 修理センター以外の者による修理または修理を試みた場合により発生した損害、劣化または故障の場合 (b) 改造された機器やシリアルナンバーが汚れている、変更されている、消されている場合 (c) 通常の摩耗および定期メンテナンスの場合 (d) 汗、腐食性雰囲気または極度の温度や湿度などその他の外部要因による劣化の場合 (e) 電源サージまたは関連する電氣的異常、雷による損害または不可抗力による損害の場合 (f) 不適切な接地または認可 / 非認可に関わらず不適切な装置の使用により生じる RF/EMI（干渉 / ノイズ）の場合は、この保証の対象外です。

### 小売店から購入した製品の保証サービスの手順

保証サービスが必要な場合は、サポートにお問い合わせください。保証を受ける方法について説明されます。

Elektron 3年間限定保証は、小売店で提供している保証に追加されます。

### Elektron オンラインショップから購入した製品の保証サービスの手順

保証サービスを受ける必要がある場合は、[www.elektron.co.jp](http://www.elektron.co.jp) から Elektron サポートにお問い合わせください。

Elektron の合意がない限り、認定 Elektron 修理センターに機器を送付しないでください。保証サービスを受けるために、機器を認定 Elektron 修理センターに送付する必要がある場合は、送料はお客様の負担となります。保証期間内のお客様への機器の再送付にかかる送料は Elektron が負担します。機器の購入時に故障していた場合、または元の購入日の2週間以内にハードウェアが故障した場合は、Elektron が認定 Elektron 修理センターへの機器の送料を負担します。

 **elektron**